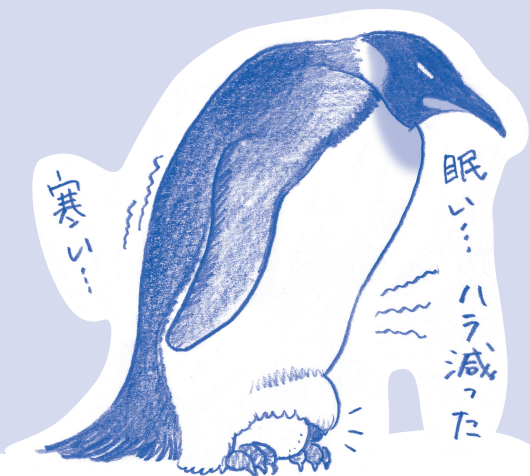


ペンギン

Penguin



ミルクを出すオス 魚をあげるメス

ペンギンといっても、世界には18種類ものペンギンがいます。もっとも大きいのがコウテイペンギン。オスのほうがやや大きいといわれていますが、外見はオスもメスもほとんど同じ。

では、行動で見分けてみましょう。コウテイペンギンはメスが卵を産むと、オスが卵を温めます。メスは食べ物をとりに海へ出かけ、オスは立ったままの姿勢で、飲まず食わずの状態です。

無事にヒナがかえってもメスが帰ってこない、オスは口からペンギンミルクと呼ばれる乳状のものを出して与え、数日は耐えしのびます。メスが与えるのは、母乳ではなくとってきた魚です。

使える小ネタ

オス同士でペアになり、卵を盗んで自分たちで育てるカップルがいます。ちなみにメス同士も！



相手を決めたら 浮気はしない！

コウテイペンギン以外にもキングペンギン、ジェンツーペンギンなどがいて、いずれもオスとメスの外見はほぼ同じで見分けは困難です。子育てについてはコウテイペンギンとは違い、オスとメスが交代で卵を温めます。また、一度つがいになると、高確率で一生涯同じ相手と繁殖する傾向もあります。

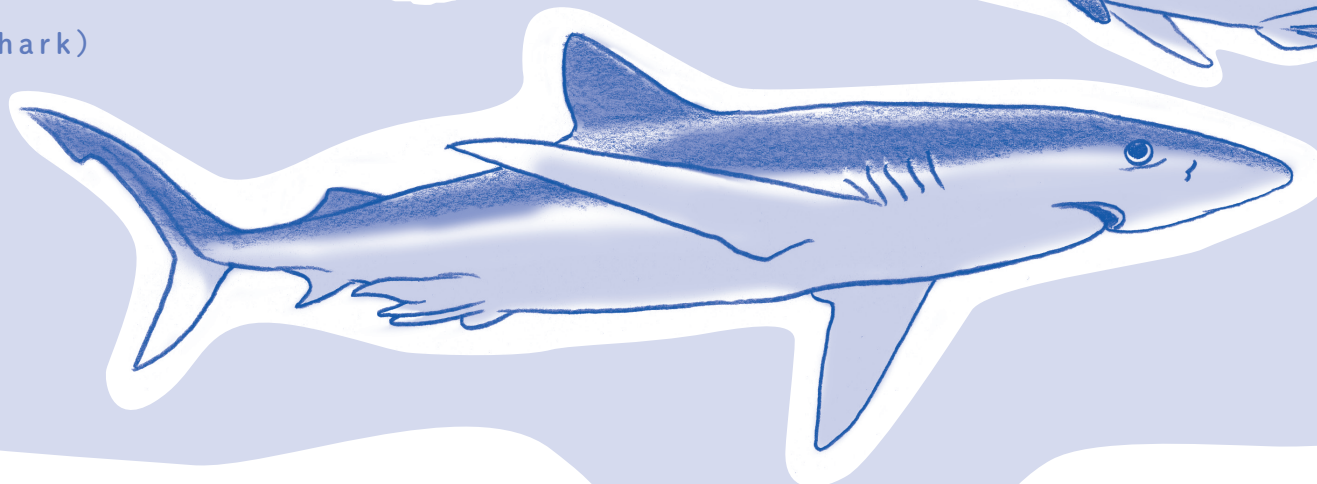
そんな仲良しペンギンのカップル誕生の秘密は、求愛のポーズ。胸を反らせて首を上へ伸ばし、大声でアピールします。ペンギンの種類ごとにスタイルは違いますが、基本的にこれがペンギンのアピール方法。オスのほうが熱心なようです。

使える小ネタ

アデリーペンギンは、求愛のために、オスがメスに石をプレゼントすることがあります。

サメ

Shark (Blue shark)



体長：約 3.8m

(ヨシキリザメ)

おちんちんが 2本丸見えだ!?

多くの魚は、メスが産んだ卵にオスが精子をかける、体外受精ですが、サメのオスは交接器（生殖器）をもち、これをメスの体内に入れて精子を送り込み、体内受精をするという特徴があります。

性的に成熟したオスは、お腹側に2本の交接器が見えるため、オスとメスの見分けは簡単です。オスの交接器は腹ビレが変形・進化したもので、中には骨が入っていて、右方向や左方向に曲げることができます。

交尾のスタイルは、お腹同士をくっつける、体を巻きつけ合うなど、種類によりさまざまなのも興味深いところです。

使える小ネタ

ドチザメなど、メスだけで出産（単為生殖）できると考えられている種類のサメもいます。

卵で産まれたり 赤ちゃん魚で産まれたり

メスの出産方法は、卵を産み出す「卵生」、母体内に産卵し、卵殻の中で育ててから子を産み出す「卵胎生」、哺乳類のようにへその緒經由で栄養を与えて育てた子を産む「胎生」など、多種多様となっています。

サメにはさまざまな種類がありますが、一般的に、交尾のときはオスがメスの胸ビレを噛んで、逃げられないようにします。そのため、胸ビレに傷（交尾傷）が多いメスはモテているということになります。そもそもメスはオスの3倍皮が厚いといわれていて、皮が厚く傷がつかない種類もいます。水族館で観察するときにはチェックしてみてください。

使える小ネタ

シロワニというサメは、子宮の中で胎仔同士が共食いして、生き残ったものだけが産まれてきます。2つの子宮があるので、最終的に2子が産まれます。